

令和4年(2022年)度 地域連携活動報告書

連携先名称：横浜市環境創造局

協定締結日：平成30年(2018年)10月22日

活動状況：継続中

連携先窓口：環境創造局農政部農政推進課(地域づくり担当) 眞柄耕治 様

活動資金：自治体予算

担当教員(所属)：福岡孝則(造園科学科ランドスケープデザイン・情報学研究室)

活動体制(単位)：研究室

関連教員(所属)：鈴木伸治(生産環境工学科・地水環境工学研究室)

岡澤 宏(生産環境工学科・水利施設工学研究室)

活動目的：

花と緑の分野に関する連携、食と農分野に関する連携、個別地域における課題解決に向けた協力などを目的とする協定である。2019年度に開始した委託研究においては横浜市内の農地を対象にグリーンインフラ研究を遂行し社会実装につなげることを目的としている。本年度実施したグリーンインフラ研究の枠組みは下記の通り。

(1) 農地整備設計の技術支援(ランドスケープデザイン・情報学研究室:福岡)

・社会的条件の調査

折本農業地区における仲町台駅でのアンケート調査

・自然条件の調査

浸透能のGISでの理論値とインフィルトロメータによる実測値の差異について

・景観条件及び緑視率の調査

緑被率の調査

可視領域の調査

対象地周辺の色調調査

(2) モデル施工区画の浸透・保水効果等の検証

(地水環境工学研究室:鈴木)

- ・ 傾斜改善効果検証

 - 心土破碎（プラソイラ）効果検証

 - 簡易土留設置による土砂・雨水流出抑制効果検証の実施区画効果検証

 - 土壌流亡のリスク低減に効果を及ぼす要因の検討

(3) モデル施工区画における RKT 測量、UAV 調査及び解析

(水利施設工学研究室:岡澤)

- 解析方法と使用データ

- 使用した機材

- 使用した空間データ

- UAV データの調査日と飛行条件

活動内容・成果：

「グリーンインフラ共同研究の実施」(4年目)横浜市が推進する農地を活用したグリーンインフラの新たな取組に関して、農地整備設計に係る技術支援やモデル施工区画における雨水の浸透・保水効果等を検証し、得られた知見をとりまとめ、グリーンインフラの社会実装に活かすための研究を実施した。(2021年度より委託研究より共同研究に移行)

課題・改善点：

今年度は昨年度に引き続き農地整備設計の技術支援、施工区における雨水の浸透・保水効果の検証、RKT 測量・UAV 調査及び解析を実施した。継続的にデータも蓄積できており、順調に進んでいる。今後の長期課題として、横浜市内の農地におけるグリーンインフラ実装に資する研究の展開をあげたい。本農地にて蓄積された成果が他地域において汎用性があるものに展開するために、今後の進め方についても横浜市環境創造局と継続的な協議が必要となる。